

品名	エチレン	国連番号	1962
----	------	------	------

該当法規・危険有害性

消 防 法						毒物及び劇物取締法			高圧ガス保安法		火薬類取締法			道 路 法		
種 別						指 定 可 燃 物	品 名 (法別表)	毒 物	劇 物	特 定 毒 物	一 般 高 圧 ガ ス	液 化 石 油 ガ ス	火 薬	爆 薬	火 工 品	施 行 令 第 1 9 条 の 1 2、1 3 に 該 当
第 1 類	第 2 類	第 3 類	第 4 類	第 5 類	第 6 類											

特 性	危 険 性			有 害 性			環 境 汚 染 性		性 状			
	禁水性	爆発性	可燃性	有 害 ガ ス 発 生			目・皮膚に触 れると危険	河川への 流入注意	固 体	液 体	気 体	水 溶 性
				常 温	加 熱 時 火 災 時	水 に 接 触						

事故発生時の応急措置

車を安全な場所に移動する。(人家や人ごみを避け、できるだけ交通の障害のないような場所に移動し、エンジンを停止し、車止めをする。)

事故の発生を大声で告げ、下記事項を消防署及び警察署に通報し、人を風上に避難させる。

火気厳禁。エンジンの熱や火花は着火源になる。

容器を覆っているシート等を取り除き、ガスを大気に放出・拡散させる。

風上より、消火、漏れ止め、容器冷却、容器移動等の災害拡大防止措置を行う。

下記事項を荷主会社、運送会社、地域防災組織等の関係機関へも連絡する。

緊急通報

119 (消防署) 110 (警察署) 高速道路の非常電話

[緊急通報例]

いつ 時 分頃

どこで 市 地区(国、県、市)道 号線 付近で

なにが 「エチレンガス(高圧ガス、可燃性)」が

どうした 漏れています。漏れて火災になっています。

ケガ人は ケガ人がいます(救急車をお願いします)。ケガ人はいません。

私の名前は 運送会社 です。

緊急連絡

(特に、休日・夜間に確実に連絡がとれる部署の電話番号を記入する)

荷主会社		運送会社	
住 所		住 所	
電 話	平日昼間 休日夜間	電 話	平日昼間 休日夜間

品名	エチレン	国連番号	1962
----	------	------	------

災害拡大防止措置

特記事項

処理剤

ガスが漏えいした場合、空気中の濃度が3.1%を超えると、火災や爆発の危険が生じるので、ガスを覆っているシート内に滞留しないよう注意する。空気より軽いガスで、漏れると上部に滞留する。

容易に着火するため、火災だけでなく、高熱物、化繊材の服の静電気や工具使用時の着火源にも注意が必要である。

容器内充てん圧力 : 35 で14.7MPa (150kg/cm²) [ゲージ圧力] 以下

爆発範囲 : 3.1 ~ 32% (空気中)

相対密度 (ガス比重) : 0.98 (空気を1とする。空気よりやや軽い。)

色・臭い : 無色・オレフィン臭 (かすかに甘い臭)

容器外面の塗色 : ねずみ色

漏えいしたとき

通風を良くして、ガスが滞留しないようにする。

防災工具を用い、風上より容器バルブ又は漏えいしている部分を静かに増し締めし、漏れを止める。ガス取出口から漏えいしているときは、パッキン及び口金キャップを取り付ける。

漏れが止まらないときは、着火源を避け、通風の良好な安全な場所で大気に拡散させる。

周辺火災のとき

容器を安全な場所へ移動する。

移動することが不可能な場合は、容器の破損防止のために容器及び周囲に散水する。

引火・発火したとき

近くに着火源がなくガスが滞留しない場所で、風上より消火し、漏えい防止措置を施す。

容器の温度が高い場合は、発火している容器及び周囲の容器に噴霧散水した後、周囲の容器を安全な場所に移動する。

周辺及び漏えい状況から判断して、消火するとかえって危険性が増すと考えられるとき等は、火災の拡大・類焼を防止するため、周囲に噴霧散水しながら、容器内のガスがなくなるまで燃焼させる。

救急措置

火傷の場合は、きれいな水や氷で患部を冷やす。ショック状態の場合は頭を低くして寝かせ、暖める。

多量に吸入した場合は、直ちに患者を毛布等にくるんで安静にさせ、新鮮な空気のある場所に移す。呼吸が停止しているときは人工呼吸を行う。呼吸困難なときは酸素吸入を行う。

患者が発生した場合は、できるだけ早く医師の手当を受ける。